

平成26年度 学校自己評価システムシート (県立白岡高等学校)

目指す学校像	自主と奉仕の精神に満ち、社会に貢献する人間を育てる、地域から信頼される学校
--------	---------------------------------------

重点目標	1 確かな学力を育成するために、授業改善をはじめとする学力向上に関する取組を推進する。 2 学校・家庭・地域の絆を深め、開かれた学校づくりを推進する。 3 生徒一人一人の、自立する力を育む進路指導を推進する。 4 豊かな心と健やかな体を有する、明るく活力ある生徒を育成する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月1日現在)		
年 度 目 標					年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい授業を行うために授業改善に取り組み、生徒からも肯定的な評価を得ている。生徒の授業態度も概ね良好で、チャイム着席等のマナーも守られている。 ・生徒の学力の差に応じた組織的な体制を整え、基礎基本の徹底と共に、生徒個々の学力を向上させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を高めるために、さらに効果的な授業改善に取り組む。 	①年間2回の授業公開週間を設定し、授業改善に関する効果的な校内研修会を実施する。 ②教員が授業改善に関する研修会・研究会へ参加する。	①学校評価アンケートにおける項目「分かりやすい授業を行い、熱心に指導している」の肯定的評価75%以上を目指す。 ②協調学習を初めとした授業改善に関する研修会・研究会に各教科から積極的に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で授業改善に取り組むことができた。 ①アンケート項目では、1,2年生77%、3年生は81%が肯定的に回答している。 ②「未来を拓く学び推進事業」等の研修会に多くの教員が参加するとともに、校内においてもジグソー法の協調学習の研究授業を行い研修を深めた。 	A	研修会への参加や授業公開を通して、教員個々の授業力向上への意識をさらに高め、生徒の授業に対する満足度を高める必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力に応じた学習環境を整え、基礎学力の定着と上位層の学力向上に取り組む。 	①各教科・科目で適切かつ効的な小テストや課題付与を実施する。 ②学力向上プロジェクトチームと連携し、進学補習等を充実させる。 ③生徒の実態に即した学習サポーターによる学び直しの指導を行う。	①学習会や補習の実施により、学力向上及び欠点保有者の減少を目指す。 ②進学を目的とした補習等に参加する生徒を増加させる。 ③数学が苦手な生徒に学習到達度において、中学生レベル以上7割を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力実態に応じた指導を工夫できた。 ①学習会や補習は計画的に実施できたが、欠点保有者の減少はできていない。 ②成績上位者支援のための進学補習は実施できているが学力向上プロジェクトチームとしては機能していない。 ③学習サポーターの支援により、7割以上の生徒が中学生レベルに到達した。 	B	学習サポーターをより効果的に活用し、基礎学力の向上を図るとともに、成績上位者に対する積極的な支援を推進する必要がある。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や活発な奉仕活動によって、保護者や地域住民、白岡市との連携は深まっている。 ・3年連続で欠員補充を行っている現状から、生徒募集に関する情報発信を見直し、効果的な生徒募集の展開が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動や部活動に関する情報発信の手段を工夫する。 	①ホームページの更新年間80回以上、メール配信20回以上をめざし、積極的に学校の情報を発信する。 ②新聞や市の広報誌等を活用し、学校情報を広く発信する。	①評価アンケートにおける項目「学校からの情報提供への満足度」の肯定的評価85%以上を目指す。 ②新聞、広報誌への掲載回数を年間15回以上に上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動状況や緊急連絡等、効果的な情報発信ができた。 ①ホームページの更新100回以上、TSメール配信20回以上行い、アンケート項目では、1,2年生89%、3年生は88%の肯定的評価を得ることができた。 ②新聞や広報紙に17回取り上げられ、本校の魅力を発信することができた。 	A	保護者や中学生が求める情報を、より効果的で、迅速に発信する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教職員、生徒、保護者への情報提供を工夫し、本校教育の特長を周知徹底する。 	①中学校訪問、学習塾への広報を組織的、効果的に実行し志願者を増やす。 ②学校説明会において入試対策講座の実施や本校生徒の有効活用等により、参加人数を増加させる。	①入試志願倍率が普通科、情報コミュニケーションコースともに1.1倍を上回る。 ②学校説明会の参加者を10%増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会の参加者は増加しているが、引き続き目標値の達成に向けて取り組んでいる(1月27日現在) ①中学校への出前授業、地元学習塾との連携等を行い積極的な広報に努めた。 ②学校案内簡易版の作成や、学校説明会の内容を見直し、説明会の参加人数は約17%増加した。 	B	普通科の少人数学級編制の効果的な運営や情報コミュニケーションコースの1学級減に対する方策を早急に検討することが最大の課題である。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者の進路指導に対する評価は高く、就職においては内定率100%を達成した。 ・生徒には、各自が希望している進路先の現状を十分に理解させ、自己の適性や能力も考慮した上でよりよい進路選択ができるよう指導することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の興味関心、適性及び能力を踏まえた的確な進路選択ができるよう指導を行う。 	①進路オリエンテーションや進路ガイダンス及び就職指導の内容を充実させる。 ②企業訪問や、入試説明会に積極的に参加し、有益な情報を生徒に提供する。	①フリーター0名、就職内定率100%を維持する。 ②生徒、保護者対象の学校評価アンケートにおける項目「進路結果についての満足度」で肯定的評価90%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年と連携し、系統的で適切な指導を行うことができた。 ①厳しい就職情勢の中で、就職内定率100%を達成することができたが、進路未定者が数名出てしまった。 ②アンケート項目の「進路満足度」については、生徒86.4%、保護者88.8%が肯定的な回答をしている。 	A	引き続き、生徒の進路意識の向上を図り、意欲的に取り組む姿勢を育成する。進学指導に関しては、もう少し踏み込んだ目標設定を検討し、共有していく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・より高い進路意識を持ち、チャレンジする精神を育成する。 	①自己の進路に対する意識を向上させ、意欲的に取り組む姿勢を育成する。	①学校評価アンケートの項目「将来の希望(夢)を実現するために努力している」で肯定的評価70%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学に挑戦し、合格する生徒が1名出たが、もう少し高い意識を持たせたい。 ①アンケート項目における肯定的回答は、1年67.0%、2年72.8%、3年85.0%であった。 	B	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が守られ、元気のよい挨拶ができる生徒が多く、部活動、学校行事も活発に行われ、成果をあげている。一方で精神的に不安定な生徒の入学もふえている。 ・種々の教育活動を通して達成感を抱かせ、自主自律の精神を育成することに加え、生徒個々の実態を把握し、教育相談体制を整備することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の共通理解に基づく、一貫した指導の実践を通して、充実した学校生活を送れる環境づくりに、引き続き取り組む。 	①生徒指導部会や職員研修を通して、生徒指導に関する共通理解を深め、早期発見、早期解決に努める。 ②部活動での生徒とかかわる時間を増やし、技術力の向上チーム力の向上を図る。	①いじめゼロ、生徒指導人数10名以内を目指す。 ②県大会以上の大会に出場する部活動11部以上、県入賞3部以上、県大会ベスト16以上5部を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する職員研修会を実施し(2月12日に実施)、より共通理解を深めることができた。 ①いじめが1件発生したが、解決した。生徒指導人数は8名だった。 ②陸上部が全国大会に出場、書道部が全国高校文化祭に出展決定。部活動で県大会以上の大会等に13部が出場し、県大会入賞4部、ベスト16以上に2部が入ることができた。 	A	生徒指導の人数は減少したが、さらに規範意識の向上と公正な態度の涵養を目指し、共通理解を図り、取り組んでいく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制を見直し、支援の必要な生徒の把握・情報の共有・支援に取り組む。 	①各学年からの情報を全職員が共有し、効果的な教育相談を展開する。	①中途退学者を10名以内ににする。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室を中心に、相談体制も整備されつつある。 ①中途退学者は7名だった(1月27日現在)。 	A	中途退学者が10名以内というのは評価できるが、ゼロに近づける指導が必要である。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成27年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>授業満足度が学年が上がるに従って伸びているのは評価できる。白岡高校の授業は、生徒を飽きさせない、しっかりとしたとても頼もしい授業である。今後も「分かりやすい授業」にむけた取組を進めてほしい。</p> <p>数学の苦手な生徒への支援は極めて効果的である。来年度以降も「学習サポーター」を活用し、生徒や保護者のニーズに応じてほしい。</p> <p>生徒の登下校の様子が地域に良い印象を与えている。ホームページや広報誌で白岡高校の頑張っている姿が伝わってくる。</p> <p>「白岡高校の面倒見の良さ」を広報活動において効果的に伝える工夫をすべきである。倍率をさらに高めてほしい。</p> <p>ほとんどの生徒の進路が決定しているというのは白岡高校の丁寧な進路指導の成果である。就職指導では2年次から就職補習を実施しているが、このような取組が内定100%につながっていると考える。</p> <p>運動部、文化部ともに大変活躍している。規律が守られ、生徒の身だしなみも整っていて、教職員の指導が実を結んでいると感じる。</p> <p>中途退学者が10名以内というのは評価できるが、ゼロに近づける指導が必要である。</p>	